

《著者紹介》

笠谷和比古（かさや・かずひこ）

1949年 神戸市出身。

1978年 京都大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。

現在 国際日本文化研究センター名誉教授（日本近世史、武家社会論）。

著作 『主君「押込」の構造』平凡社選書、1988年〔サントリー学芸賞受賞〕／講談社学術文庫、2006年。

『近世武家社会の政治構造』吉川弘文館、1993年。

『士（サムライ）の思想』日本経済新聞社、1993年／岩波書店（同時代ライブラリー）、1997年／ちくま学芸文庫、2016年。

『関ヶ原合戦』講談社選書メチエ、1994年／講談社学術文庫、2008年。

『徳川吉宗』ちくま新書、1995年。

『近世武家文書の研究』法政大学出版局、1998年。

『「日暮砦」と改革の時代』PHP 新書、1999年

『江戸御留守居役』吉川弘文館、2000年。

『関ヶ原合戦と近世の国制』思文閣出版、2000年。

『武士道と日本型能力主義』新潮選書、2005年。

『関ヶ原合戦と大坂の陣（戦争の日本史17）』吉川弘文館、2007年。

『伝統文化とグローバリゼーション』NTT 出版、2009年。

『武家政治の源流と展開』清文堂出版、2011年。

『徳川家康』ミネルヴァ書房、2016年。

『真田松代藩の財政改革』吉川弘文館、2017年。

『武士道の精神史』ちくま新書、2017年。

『信長の自己神格化と本能寺の変』宮帯出版社、2020年。

『論争 関ヶ原合戦』新潮選書、2022年。

『近世の朝廷と武家政権』ミネルヴァ書房、2025年。

『論争 大坂の陣』新潮選書、2025年、ほか。